

令和三年度 奈良県租税教育推進連絡協議会会長賞

みんなでつくる日本の社会

香芝市立香芝西中学校 三年 横田 蒼馬

私たちは国に税を「納めている」「払っている」のでしょうか。いいえ違います。私たちは自分たちに税を「使っている」のです。

消費税や所得税、法人税など私たちの生活にあふれている税はどのような道をたどって何に使われているのでしょうか。まず私たちが納めた税は税務署などを通して国や県、市町村に集められます。例えば国税だと国の歳入となり、日本の財政を安定させます。その後、国は歳出として公共サービスや公共施設の建設・整備などの様々なかたちで私たち国民に税を使います。

このようにして税は生活を巡ります。一度私たちの手から離れた税ですが、最終的には私たちのもとに戻ってきて循環していきます。つまり、税は基本的な生活を送るために国を通して私たちが身近に使っているお金なのです。その身近さゆえに忘れられやすいですが、税とは自分のための必要最低限の最も優先すべき出費なのです。税がなければ私たちは生きていけない程、税はとても大切なものなのです。

しかし、税に対しての国民の意識が低いのではないかと私は思います。自分なりに考えたその原因として次の二つを挙げます。

一つ目の原因は言葉のイメージが悪いということです。「納税」や「徴収」などどうしても国に取られているように感じる言葉が多いです。江戸時代の年貢であれば幕府に納める税というイメージがありますが、今は国民のための税です。私たちが税を出すのですから、私たちの税への印象は大切です。例えば、出す「出税」や貸す「貸税」などのような良い印象の言葉に変える必要があると思います。

二つ目の原因は身近な税の恩恵を感じられている人が少ないということです。街に道路があり、ゴミがあふれないのも安心して水道水が使用できるのも全て税のおかげです。これらは生活にとけこみすぎて見落としがちで、どうしても医療費や教育費などのある特定の人への税の恩恵が目立ちます。もっと国民が税の恩恵を身近に実感できるような社会が必要だと思います。国が税の使い道をより細かく開示して、ニュースや新聞などでそれを取り上げたり、県や市町村の予算により住民の意見を取り入れるなど方法はいろいろあると思います。

このように、税は私たちが安心して健康に生きていくために必要不可欠な存在です。一度国や地方公共団体が集めているだけであって、決して納めているわけではありません。自分たちが出した自分たちのためのお金なのだから、もっと関心を持つべきです。私たちが出す税は国を変える程の大きな力を持っています。豊かでより良いこれからの社会をつくるのは私たちの税の力です。これからもみんなでより良い日本をつくっていきましょう。